

# KALS NEWSLETTER 51

2015年6月  
九州アメリカ文学会  
事務局 西南学院大学文学部英文学科  
福岡市早良区西新6-2-92  
〒814-8511

## 「アメリカ南部と白人性」

永尾 悟 (熊本大学)

第61回九州アメリカ文学会のシンポジウムは、「アメリカ南部と白人性」というタイトル通り、南部の地域性を白人性の観点から考察するものでした。Houston A. Baker, Jr.が21世紀の幕開けとともに「新しい南部研究 (“a new Southern studies”）」の必要性を提唱して以降、多様な視点から南部をとらえる試みが盛んになっています。「南部人」という言葉が白人であることを基本的な前提としていたのであれば、白人性という視点から南部について問い直すことも求められるはずで、ホワイトネス研究は1990年代から領域横断的に進展してきましたが、南部に焦点を当てた研究書は決して多くはなく、Grace Elizabeth Haleの*Making Whiteness* (1997) という歴史的視座から論じた良書に続く包括的な研究が待たれているところです。Faulknerに関して言えば、Jay Watson 編の*Faulkner and Whiteness* (2011) は、ホワイトネス研究の基本概念を踏まえつつ Faulkner 作品を読み解く意欲的な試みですが、南部という地域性のとらえ直しを射程には入れていないようです。本シンポジウムでは、南部研究のパラダイム・シフトを意識しながら、人種的構築としての白人性から映し出される南部像について、私を含めて4名による発表を通して考えてみることにしました。それでは各発表の内容を私の理解に基づいてご紹介いたします。

小谷耕二先生のご発表は、Robert Penn Warren の*Band of Angels* (1956) を取り上げ、パッシングする混血女性の語り手 Amantha Starr の自己認識について、語りが生み出す不自然さや不可解さから Warren の人種意識を読み解くものでした。*I'll Take My Stand* (1930) ではパストラルな南部像の提示によって人種の問題を不在化したアグリアンですが、小谷先生は、Warren の複数の作品において人種に対して目を向けようとする衝動と目を背けようとする衝動が読み取れることを指摘されました。

宮本敬子先生のご発表は、Grace King 文学における白人クレオール社会の人種表象について、“Monsieur Motte” (1886) などの短編を通して考察されました。旧南部的価値観の文化的象徴として造形された南部淑女と黒人乳母との関係性が、King のテキストにおいていかに表象され、そして解体されたのかを明らかにする内容でした。さらに、クレオール社

会の特殊な人種関係がジム・クロー法の影響を受ける 19 世紀末の時代状況を King の作品が映し出す点についても指摘されました。

私の発表は、William Faulkner の *Intruder in the Dust* (1948) における白人少年 Chick Mallison の自己認識について、南部の歴史的連続性とアメリカの同時代性のコンテキストの中でいかに構築されるのかを考察しました。さらに、この作品が 1950 年代以降の Faulkner が南部白人作家として示した立場を予兆するものだという指摘をしました。

招待講師としてご発表いただいた立教大学の新田啓子先生は、Zora Neale Hurston の *Seraph on the Suwanee* (1948) におけるクラッカー社会の力学について考察されました。冒頭において、ハーレム・ルネサンス周辺の黒人作家による南部表象の類型を示しながら、黒人民衆文化に精通した Hurston が描き出す南部像について説明されました。そして、黒人の自律的な共同体を描くことにこだわった Hurston が、唯一白人を主人公に据えたこの作品を通して、南部という特殊性を越えたアメリカの未来像を提示しようとした点について論じられました。

*Seraph on the Suwanee* と *Intruder in the Dust* は偶然にも同年に出版され、フロリダとミシシッピという場所の違いはあるものの、南部の架空の町に住むクラッカーについて描いています。発表では詳しく触れませんでしたでしたが、*Intruder* の主軸となる殺人事件は、製材業を営む白人たちが同族婚によって作り出された閉鎖的な共同体で起きており、人種の問題にすり替えられた事件の真相は白人一族のいさかいです。新田先生は「Hurston は Faulkner のような作品を書いてみたかったのではないか」と考えてみるのも有益だというご指摘をされましたが、これに対して私は、「Faulkner は Hurston が描く南部白人の共同体についてどう考えたのだろうか」と思いを巡らせました。

フロアには、新田先生のご同僚である後藤和彦先生と舌津智之先生、そして、前日にご講演いただいた名古屋大学の長畑明利先生がいらっしゃいました。地理的境界を越えた南部性の相互作用というのがシンポジウムの趣旨だったわけですが、鹿児島という「深南部」の地で越境的な交流が実現したことを大変嬉しく思います。そして、このような交流の場をご準備いただいた竹内勝徳先生、千代田夏夫先生、小林朋子先生には厚く御礼申し上げます。懇親会会場行きのバスまで手配してくださったサザン・ホスピタリティには本当に心温められました。

## 地区便り

<熊本地区>

熊本大学 池田志郎

前回以降の熊本アメリカ文学研究会の活動をお知らせいたします。この研究会の中心は九州アメリカ文学会の熊本在住の会員ですが、アメリカ文学に関心のある方ならどなたでも参加できる地域開放型の研究会です。毎回、研究者以外の方も何名か参加されていて、貴

重なご意見をいただいております。また、発表者の関心領域により、文化研究についての発表も歓迎しています。

○126回（2014年11月29日）熊本大学にて

題 目： ホーソーンとオルコット— “Rappaccini’s Daughter” を中心に

発表者： 山本 幹樹 （熊本大学非常勤講師）

司会者： 池田 志郎 （熊本大学）

\*オルコットがホーソーンの影響を強く受けているという視点から、*A Modern Mephistopheles* と “Rappaccini’s Daughter” の関係が発表されました。葉や視覚に関わる考察は興味深く、読者の視点まで含めた議論は示唆に富むものでした。

“Rappaccini’s Daughter” は有名ですが意外と難解な作品ですので、今回の発表で新しい発見もいくつかありました。また、研究会後は忘年会が開かれ、会員の親睦を深めました。

○127回（2015年2月21日）熊本大学にて

題 目： *At the Bottom of the River* の母と娘

発表者： 楠元 実子（熊本高専）

司会者： 弓削 美代子

\*ジャメイカ・キンケイドの作品を取り上げ、母の愛／支配、母と娘の関係性の変化、娘の自己の獲得という視点からの発表でした。娘が段々と自立して行き、自分の意思で未来を切り開き、独立宣言をするまでが語られ、自然との一体化についての言及もあり、刺激的な発表でした。また、女性参加者が多いこともあって、体験談を交えた質疑応答も活発に行われました。

○128回（2015年4月25日）熊本大学にて

題 目： John Steinbeck の *Travels with Charlie in Search of America*(1962) に  
ついて——人生とは旅なり

発表者： 馬渡 美幸 （熊本大学非常勤講師）

司会者： 池田 志郎 （熊本大学）

\*スタインベックのベストセラーを材料に、生と死、作家の透徹した視点、孤独、迷子というモチーフを中心に発表がありました。実際にはいくつかの脚色もあったということですが、この作品には読後の爽快感があります。参加者からは、羨ましいとの声や同じような旅行をしたとか、なぜ人間は旅に出るのか、旅に文化の差はあるのかなど、活発な意見が出されました。今回の研究会は、スタインベックが私たちに旅に連れ出してくれたようでした。

なお、次回（7/18 予定）はレイチェル・カーソンの *Under the Sea-Wind* からの発表が予定されています。熊本地区の研究会に関心のある方は、遠慮なくメールにて池田（ikedash@educ.kumamoto-u.ac.jp）までご連絡ください。

<長崎地区>

県立長崎シーボルト大学 山田 健太郎

長崎地区では、ささやかながら長与町国際交流協会の読書会という形で、アメリカ文学の喜びを分かち合う活動が始まっています。昨年の便りで紹介いたしました *The Witch of the Blackbird Pond* を読む会は 20 回におよび、ピューリタンや魔女の話から、女性の生き方や、恋愛観まで、さまざま話題でいつも予定時間を超える盛り上がりようでした。生田和也・沙紀夫妻の若々しいエネルギーが多に貢献したのはいうまでもありません。その打ち上げの会で、本年度も読書会が継続することが決まり、*The Great Gatsby* を読むことになりました。講師メンバーは、昨年度同様に長崎外国語大学学長の石川昭仁先生、生田先生、私が担当します。映画も参照しながらすすめる予定です。どのような議論になるか楽しみにしております。

<鹿児島地区>

鹿児島大学 千代田夏夫

五月雨に始まり五月晴に終わった二日間、5月9日・10日鹿児島大学郡元キャンパスにて開催された九州アメリカ文学会第61回大会には多くのご参集をいただきまして、まことにありがとうございました。鹿児島地区会員の動静をご報告いたします。すでにお馴染深い小林朋子先生は、今春より鹿児島県立短期大学に専任講師として着任なさいました。ますます薩摩の地に根を張って、豊かな花を実をもたらしてくたさいますことと、確信いたしております。千葉義也先生（鹿児島大学名誉教授）は「1930年代のアメリカ『持つと持たぬと』の世界―」を片平会編『片平五十周年記念論文集 英語英米文学研究』（金星堂、2015）に寄せられました。To Have and Have Not のテキストに現れた当時の政治・経済・文化の状況を詳細に分析された貴重なご論考です。森孝晴先生（鹿児島国際大学）は、前回の論文「ジャック・ロンドンと門司・小倉」に続いて研究ノート「ジャック・ロンドンと長崎」を6月発行の大学紀要にご発表、ジャック・ロンドンの長崎滞在の経緯が明らかとなるご考察です。また、ロンドンと鹿児島との関係を明らかにしたご著書とこうした一連のご研究を合わせ、6月13日に鹿児島大学で開催された日本ジャック・ロンドン協会第23回年次大会では、「ジャック・ロンドンと九州」と題された研究発表も行われました。同大会では鹿児島国際大学大学院博士後期2年の学生さんもロンドンの『マーティン・イーデン』についての研究発表をされ、ロンドン研究センターとしての鹿児島がますますアピールされております。竹内勝徳先生（鹿児島大学）は大会開催校としてほとんどの業務を一手に取り仕切ってくださいながら、研究発表『『ファーンショー』における鏡像と破壊―ポール・オースターを通して読むポストモダンなホーソーン』で、時代と作家を縦横無尽に操りながら、鮮やかなご論を展開してくださいました。千代田は「中等教育英語における、米文学とジェンダー・セクシュアリティ―高等教育での教材選定と模擬授業を通して」「アメリカン・ゴシックにおける「過剰」―Goddu と Riquelme の編著作を中心に」等の論考を大学紀要に掲載、また日本 F. スコット・フィッツジェラルド協会全国大会シ

ンポジウム『夜はやさし』を読み直す」(於文京学院大学)にて藤谷聖和(龍谷大学) 森慎一郎(京都大学) 坂根隆広(関西学院大学) 各先生とともに『夜はやさし』をゴシックとして読む」を、また九州アメリカ文学会でも「ゴシック的視点から読む F. Scott Fitzgerald」を發表させていただきました。その節はご清聴賜りまして、本当にありがとうございました。

### 事務局からのお知らせ

1. 2015年度全国大会は10月10~11日京都大学で開催されます。
2. 日本英文学会九州支部大会は10月24~25日佐賀大学で開催されます。
3. 九州アメリカ文学会第62回大会は2016年5月8~9日九州大学伊都キャンパスで開催されます。
4. 事務局への連絡に関しまして、会費に関するお問い合わせは藤野功一([k-fujino@seinan-gu.ac.jp](mailto:k-fujino@seinan-gu.ac.jp))まで、会費以外の件に関するお問い合わせは宮本敬子([keikom@seinan-gu.ac.jp](mailto:keikom@seinan-gu.ac.jp))までお願いいたします。

(宮本敬子)

### 2015年度役員・委員名簿

会 顧	長 問	早瀬 博範 (佐賀大) 橋口 保夫 野口 健司 野田 壽 安河内 英光 山里 勝己 (名桜大) 小谷 耕二 (九州大)
事 務 局 幹 事	長 事	宮本 敬子 (西南学院大) <例会担当>大島 由起子 (福岡大) <例会担当>江頭 理江 (福岡教育大) <大会担当>高橋 勤 (九州大) <九州アメリカ文学賞担当> 高橋 美知子 (福岡大) <ニュースレター担当> 下條 恵子 (九州大)
会 監 編 集 委 員 長	計 査	藤野 功一 (西南学院大) 鈴木 繁 (佐賀大) 池田 志郎 (熊本大)

本部代議員 早瀬 博範  
                   宮本 敬子  
 本部大会運営委員 高野 泰志  
 本部編集委員（支部選出） 渡邊 真理子（西九州大）  
 本部サイト運営委員 岡本 太助（九州大）  
 編集委員 池田 志郎  
                   永尾 悟（熊本大）  
                   楠元 実子（熊本高専）  
                   田口 誠一（尚絅大学）  
                   Scott Pugh（福岡女子大）  
                   Denis Jonnes（北九州市立大）  
                   David Farnell（福岡大）  
 地区委員 前田 讓治（北九州市立大）  
                   鈴木 繁  
                   山田 健太郎（県立長崎シーボルト大）  
                   池田 志郎  
                   雲 和子（大分大）  
                   井崎 浩（宮崎大）  
                   千代田夏夫（鹿児島大）  
                   喜納 育江（琉球大）  
 支部サイト運営委員 岡本 太助  
                   藤野 功一

### 2015 年度年間行事予定

3月31日（火） 日本アメリカ文学会第54回大会発表者応募締切  
 4月上旬 第54回日本アメリカ文学会全国大会応募者選考  
 4月中旬 九州アメリカ文学会第61回大会プログラム発送  
 4月30日（木） 『九州アメリカ文学』原稿応募締切  
 5月 9日（土） 九州アメリカ文学会第61回大会（鹿児島大学）  
                   研究発表、総会、講演会、懇親会  
                   10日（日） 同上 シンポジウム  
 6月下旬 *KALS NEWSLETTER* 51号発行/発送

8月中旬	第1回例会案内発送
9月上旬	第1回例会(未定)
10月10日(土) 11日(日)	第54回日本アメリカ文学会全国大会(京都大学) 同上
10月24日(土) 25日(日)	日本英文学会第68回九州支部大会(佐賀大学) 「アメリカ文学部門シンポジウム」 同上
11月上旬	第2回例会・忘年会の案内発送
11月下旬	『九州アメリカ文学』56号発行/発送 <i>KALS NEWSLETTER</i> 52号発行/発送
12月上旬	第2回例会(未定)、忘年会
2016年	
2月13日(土)	九州アメリカ文学会第62回大会発表者応募締切
2月下旬	九州アメリカ文学会役員会・文学賞選考委員会の案内発送
2月20日(土)	九州アメリカ文学賞 応募締切 九州アメリカ文学出版助成金 応募締切
3月上旬	九州アメリカ文学会役員会(西南学院大学) 出版助成金選考/九州アメリカ文学会第62回大会発表者決定 九州アメリカ文学賞選考委員会
3月31日(火)	日本アメリカ文学会第55回大会発表者応募締切
4月上旬	第55回日本アメリカ文学会全国大会応募者選考
4月中旬	九州アメリカ文学会第62回大会プログラム発送
4月30日(土)	『九州アメリカ文学』原稿応募締切
5月8日(土) 9日(日)	九州アメリカ文学会第62回大会(九州大学伊都キャンパス) 総会、九州アメリカ文学賞・出版助成金受賞式、懇親会 同上 シンポジウム

以上